

令和３年度目黒区廃棄物減量等推進審議会（第１回）における主な意見・要望について

意見・要望

１ 審議会の進め方について（資料４）

特になし

２ 条例と条例施行規則について（資料５）

特になし

３ 今年度のスケジュールについて（資料６）

特になし

４ 目黒区一般廃棄物処理基本計画について（資料７）

- ・ １人当たりのごみ量は増加していると思われる。目標達成に向け施策の見直しが必要ではないか。カーボンニュートラルや資源循環などの国際・国内情勢も大きく変化し、アフターコロナを見据えた再検討も求められる。
- ・ 令和７年度までに１日１人当たり約１００ｇ減量という目標に向け、現状ではどの程度進んでいるのか。
- ・ 「１人１日当たりごみ量」には、資源ごみを含まないのか。また、この目標値は、清掃一部事務組合が毎年調査しているごみ排出原単位の数字（令和元年度ごみ排出原単位等実態調査報告書。区部平均が４５０ｇ）と比べて高くなっているのはなぜか。
- ・ 上記の実態調査報告書から分かることをまとめた（別添）ので情報共有したい。
- ・ 重点施策に「戸別収集の検討」が挙げられており、家庭ごみ有料化との関連で検討されているようだが、戸別収集のメリットの一つには、極端に排出原単位が多い世帯への助言・指導を可能にするということもある。家庭ごみ有料化の是非にかかわらず、併せて検討してほしい。
- ・ 本計画は概ね５年ごとの見直しとされている。１日１人当たりのごみ量はコロナ禍でむしろ増大していると聞く。計画改定は前倒しできないものか。
- ・ 基本方針と施策について素晴らしい内容が含まれており、個別施策にも理想的な内容が盛り込まれている。多くの自治体が同様の施策や目標を掲げ、ここ数年間で食品ロス（事業系も含む。）は減少傾向にあるものの劇的な量の削減にならない。おそらく、事業者の努力が主となってしまう、市民レベルの啓発、教育、取組が少ないか、空転しているのではないかと推察する。
- ・ 重点施策２の拡大と啓発、教育への取組を上から押し付けるのではなく、区民も参加しやすい仕組みづくりをするべき。たとえば、他区の小学校では、農場への堆肥の供給を目指して、生徒が主体となって給食廃棄物の堆肥化を実験したと聞く。
- ・ 基本計画に対する実績は、どのように確認しているのか。統計の取りまとめは、年次単位か、それとも月次単位か。地域単位の数値は出せるのか。
- ・ 計画に対する達成状況をより迅速に公開し、可能であれば、地域や事業所などの単位で公開し、競争を生むのがよいと考える。重点施策６も同様の手法を提案したい。

5 目黒区使い捨てプラスチック削減方針について（資料8）

- ・ 区の率先した取組は素晴らしい。区報、HPだけではなかなか伝わらないので、区民や区内事業者への啓発につながる取組を工夫していただきたい。
- ・ 区有施設内の食堂・売店でのプラスチック製品の使用を削減するとあるが、プラスチック容器の代替品の用意や、そのためのコストなどは具体的にどうするのか。必要に応じて具体的な支援を検討すべき。また、区内の小売事業所、飲食店などにもこうした削減方針が徹底され具体化されるよう区として様々な支援を行うべき
- ・ マイバッグ、マイボトルの積極的な利用や心がけが少しずつ定着しつつある。路上へのペットボトル投げ捨てを減らす方法も必要ではないか。
- ・ 「まず区が率先して削減の姿勢を示そう」という思いは分かるが、本来は、「事業者が（容器包装を含め）プラスチックを作って売りたい放題、後始末は税金」というシステムを変えるべき。事業者の責任を問うべき。
- ・ プラスチック削減自体は賛成。しかし、マイボトルを1日持ち歩くことについては、衛生面で苦慮している。アルミ缶・スチール缶に置換するのは社会全体（自治体や企業）として難しいのか。

6 令和3年度新規事業の概要について（資料9）

プラスチック削減対策

- ・ プラスチック削減と食品ロス削減は喫緊の課題であり、新規事業に大いに期待する。率先した取組をする区民や事業者のインセンティブとなるような施策を期待する。ワクチン接種事業の効果で、多くの区民がLINE目黒区アカウントを知ることになった。このような個人向けのプッシュ型の発信も考えられると思う。
- ・ マイ容器キャンペーンは、商店街としては、お客様がどのような容器を持参するのか、容器の衛生面が気になる。
- ・ エコテイクアウトは、どのような素材のものが認められるのか。
- ・ 事業者向けの事業については、商店組合が消滅しているケースもあるため、お店への周知は気を付けてやってほしい。プレミアム商品券の周知方法を参考にしてみてもどうか。
- ・ アニメーション動画の作成は、相応の予算を使って実施すると思うので、区民へ効果的に情報発信できるものを作ってほしい。シナリオを事前に審議会に諮るということをしてもらってもよかったのではないかな。

食品ロス削減対策

- ・ フードドライブは食品ロス削減として、また、そのための啓発活動としても効果的であると思う。
- ・ 以前フードバンクの活動にかかわったことがある。集まる食品の種類が幅広く、仕分けや分類に手間がかかった。珍しい種類の調味料など、使う人や団体が限定されるものは、集まりやすかった。
- ・ 集まったものが適切に利用者・利用団体にマッチングされるよう、必要な食品、もらって困った食品について利用者・利用団体を対象とした調査をするのはどうか。その上で、団体ごとに必要な食品リストができればフードドライブを始めようと思う団体も安心して参加しやすくなると思う。
- ・ 仕分けや運搬をするボランティアへの謝金や、食品運搬時の事故等を想定したボランティア保険の加入料などが補助可能であれば、参加団体にとってより使いやすい補助制度になると感じる。
- ・ コロナ禍で経済的に困窮し、食材が買えない世帯がある。子どもが満足に食事できず痩せているという報道もある。食品ロス対策をこうした困窮世帯の支援に繋いでいく取組を進めるべきである。食品ロス削減は環境問題と同時に、貧困や子育て支援にも生かすべき。SDGsは、こうしたものを包摂する考え方である。
- ・ 家庭から排出される食品は276万tとあるが、具体的にはどのようなものか。
- ・ 食品ロスを発生させている家庭は、どのような世帯なのか。二人以上世帯なのか、高齢者でない一人世帯なのか。

などの実態把握が必要

- ・ スーパーで豆腐やかまぼこなどの商品を奥の方から引き出して買っている年配の買い物客をよく見かける。おそらく、毎日買い物に来られない事情があって、少しでも賞味期限の長いものが欲しいのだろう。そういった消費者の行動で、スーパーでも大量の売れ残り（食品ロス）が出てしまう。消費者へ向けて、簡単にできるフリージングや冷蔵庫の残り物での「おかず 1 品」レシピなどが提案できれば、改善されるかもしれない。
- ・ フードドライブ支援は、商店街、町会、住区などエリアの分け方はいろいろあると思うが、工夫をして実施してほしい。
- ・ 食べきり協力店の意見交換会と食ロス講演会は、コロナが収まっていないときは、オンライン会議での開催を検討してほしい。先行事例を参考にしながら取り組んでほしい。

7 その他

- ・ ごみ減量の取組として友人等に家庭ごみ、生ごみ等の水切りを勧めている。他の提案としては、分別の指導、テイクアウト容器（プラ）を別で収集するというのはどうか。
- ・ 書面会議の場合、規定通り運用されているか十分に確認し、表記の仕方をもう少し工夫したほうが良い。
- ・ 目黒清掃工場の建替工事の進捗状況について審議会委員がもう少し把握すべき。
- ・ 書面会議ではなく、オンラインでの会議はできないのか。
- ・ 基本計画（特に長期計画）などの書類を読むにあたり、元号での表記は読みづらいので西暦に統一してほしい。
- ・ 先進事例（廃プラや食品廃棄物をエネルギーとして利活用する実証実験、バリューチェーン化された堆肥化システム、悪臭発生前に生ごみを減容化する超高性能微生物、食品廃棄物の最新鋭エネルギー化システムなど）を共有したい。
- ・ サステナブル教育又は廃棄物削減に関する教育の現場視察、実務者を交えた意見交換会などを審議会スケジュールの中に取り込んでもいいと思う。
- ・ 審議会委員となって「計画」、「現状と課題」、「目黒区使い捨てプラスチック削減方針」等の資料を読むことになり、地域として（区として）の取組に未来を感じた。他の委員の意見を聞けることが興味深い。
- ・ 紙の使用量を抑える観点が必要。メールやウェブ会議は活用しないのか。書面会議を継続する場合は、資料を印刷する際に、A 4 1 枚に複数ページを入れることが有用。
- ・ 「プラスチック削減」や「包装をやめること」は、衛生面を考えると不適切な場合もあると思う。一時的にストップしたり実施方法を見直したりする必要があるものが、あるのではないか。

以 上